

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団

平成 29 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名： むし歯予防対策事業

2. 申請者名： 一般社団法人 熊本県歯科医師会 会長 浦田 健二

3. 実施組織： 一般社団法人 熊本県歯科医師会

4. 事業の概要：

本県における子どものむし歯有病状況は、全国に比べ多く、12歳児（中学1年）一人平均のむし歯本数1.6本（H24）は、全国最低から5番目という厳しい現状にあり、子どものむし歯予防対策が喫緊の課題である。

そこで、むし歯予防に有効なフッ化物洗口を県内全域の小・中学校に普及促進を図るため、小中学校関係者等にフッ化物の有効性及び安全性について周知するとともに、むし歯予防全国大会を熊本県で開催し、正確な歯科保健情報を提供し、参加者のフッ化物洗口導入の必要性を認識してもらう。

5. 事業の内容：

一 歯及び口腔の健康づくり指導

(1) 学校での健康教育や歯科保健指導の実施

①むし歯や歯肉炎予防の講話 ②歯磨き指導

【研修会内容】

- ・熊本県の学齢期のむし歯の状況
- ・むし歯の発生やフッ化物利用によるむし歯予防の仕組み
- ・むし歯予防対策の根拠
- ・フッ化物洗口の具体的な導入方法及び実施方法
- ・フッ化物洗口の有効性と安全性

熊本地震被災地区の小学校を最優先校(4校)として、研修会を実施した。

受講者：教諭、養護教諭、保護者

全児童(上記の受講者とは時間をずらして行う)

(2)熊本県歯科医師会と熊本市歯科医師会協働によるフッ化物洗口に関する現状を踏まえ、改善策を検討するフッ化物推進会議を開催

- ・施設で行うフッ化物洗口における間違い防止のための留意事項の作成
- 2. フッ化物洗口実施手順の作成

- ・施設で行うフッ化物洗口における間違い防止のための留意事項を取りまとめて配布し、適正なフッ化物洗口を周知するために、フッ化物手順実実施手順を作成した。

(3)ワーキング委員会の開催

ワーキング委員会で、フッ化物洗口の重要性を学校関係者、自治体、児童生徒の保護者にフッ化物洗口をした場合の予防効果を広報するためのパンフレットを作成した。また学校歯科医が適切な健診業務を行うための健診用テキストを作成した。

- a. 小中学校における歯及び口腔の啓発パンフレットの作成
- b. 学校歯科健診早見表の作成

二 「第39回むし歯予防全国大会 in KUMAMOTO」の開催

メインテーマを「健口長寿～フッ化物の応用・継続の力～」と題して、健康長寿の実現には歯と口の健康が不可欠であること、そのためには、フッ化物洗口を継続して行うことが重要であることを認識してもらうことを重点に置き、特別講演と行政・養護教諭・県歯役員によるシンポジウムを行った。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

フッ化物洗口事業の実施校が増えたことによる成果として、本県の12歳児(中学1年)の一人平均むし歯数が平成21年度は2.6本、都道府県順位46位(ワースト2位)であったが、平成28年度は1.1本、都道府県順位31位となり虫歯保有率の減少に繋がりさらに、早期に全小中学校でフッ化物洗口を開始した4町村(玉東町・産山村・高森町・芦北町)においては12歳児のむし歯が大幅に減少している。しかし政令指定都市である熊本市が未だ小学校のフッ化物洗口実施率が10.9%と低速しており、今後の課題である。また今後フッ化物洗口実施の継続・定着させるには、予算的な問題・施設における環境整備・関係者の意識改革を図るために、幅広く周知する方法を検討しなければならないと思われる。